

ふふっ♡アナタのおちんぽすっごく元気いっばいだね♡
アタシのぴっちりスーツに興奮しちゃったの？そっかそっか♡
今日のジムバトル中もおっぱいとおしりを ずーっと見てたもんね♡

少し怖い？大丈夫アタシが優しくリードしてあげるから♡
ほらアタシの中に挿れてみよ？♡
パイロットのアタシが最高のフライングにお連れするからね♡



あん♡すっぴん熱いのアタシの中でゴクゴクってごっご
もつと奥まで突き上げてきていいよ？
アタシのおまんこアナタのおちんぽ大歓迎なんだから♡

あは♡おちんぽゴクゴクって跳ねちゃってすっぴん可憐な反応…好き♡
うふふ…♡アタシのなかすっぴん気持ちいいでしょ？
空を飛んでるみたいの高まってきちゃうね♡

びん♡
びん♡
びん♡
びん♡
びん♡



風に乗るみたいに腰を揺らしてあげる♡
うんうん♡パイロットさん操縦上手だね♡このままマタシと一緒に
もっともつと気持ちいいところまで飛んじゃおっか♡

ほらアタシの腰を掴んで…そうそうその調子♡
ぶつとんじゃうくらいもつと大胆に突き上げてきていいんだよ♡
おまんこぎゅーぎゅーって締めてアナタの精液全部搾り取っちゃうからね♡



もっと激しく♡アタシと一緒に空の上まで昇る♡
あっ♡あっ♡イキそうなの？
アタシのナカにびゅーって出したいくなっちゃった？

うふふいいよ♡アタシももうすぐ最高の高さに達して♡
ほらアタシの中でおちんぼがパンパンに…あんっ♡
精液いっぱい溜まってるんだね♡全部アタシの中に注ぎ込んで♡



ジュウキNONON♡♡ジュウキジュウキ♡♡

あつ♡あつ♡きたあ♡アナタの熱いの
アタシの中にびゅるびゅるってえ♡すっごい量♡
アタシのおまんこ精液でいっぱいになっちゃったあ♡

ハレハレ♡

あめ♡

ハレハレ♡

ハレハレ♡

ハレハレ♡

ハレハレ♡

ハレハレ♡

ハレハレ♡



はあ…はあ…最高のフライングだったね♡
アナタとエッチするのまるで空を飛んでるみたいに気持ちよかった♡

でもまだまだ物足りないかも…？
次はアタシが上に乗ってもっと激しいフライングを楽しまない…？♡



キョウヘイの腰に跨るとフウロは艶めかしい笑みを浮かべた
その表情からは「まだまだ欲求が満たされていないことが窺える
彼女の長い髪が風になびくように揺れ、その姿は空を自由に舞う鳥のようだった

「ねえ キョウヘイ アタシね まだまだ飛びたいの♡

アナタと一緒に もっともーっと高く舞い上がりたいな♡」

フウロの声には甘い蜜が滴るような色気が含まれていた

彼女の手がゆっくりとキョウヘイの胸元を這い、その指先で優しく円を描く

「うふふ アナタのココ またどクンって反応してる♡

アタシのこと まだまだ欲しいんだ？」

彼女の瞳が妖艶に輝く、その眼差しは「まるで獲物を捕らえた猛禽類のようだ

しかしその中には深い愛情も宿っている

「さあ アタシと一緒に もう一度空の果てまで飛んでいこう？」

今度は アタシが主導権を握るからね♡ 最高の景色 見せてあげる♡」

フウロはゆっくりと腰を下ろし、キョウヘイの硬くなつた肉棒を

自身の中に迎え入れる、その瞬間、彼女の口から甘美な吐息が漏れる

「ああん♡ やっぱりキョウウヘイのおちゃんぽ 最高♡
アタシの中にびったりフィットしてる♡」

彼女は腰を前後に揺らし始める

その動きは「まるで風に乗る鳥のように滑らかで優雅だ

「ほら キョウウヘイ アタシの動き 感じる??」

まるで空中でアクロバット飛行してるみたいでしょ??」

フウロの動きが徐々に激しくなっていく

彼女の胸が上下に揺れ「その姿は官能的そのものだ

「あん♡ あん♡ キョウウヘイ すごい♡」

アタシの中で「どんどん大きくなってる♡」

彼女の声が徐々に高くなり「その調子も乱れてくる

それは「彼女自身も快感の渦に飲み込まれていることを示している

「ねえ キョウウヘイ♡ 二人でこのまま もっともっと高みに昇ってごらん♡」

フウロは腰の動きを更に加速させる

その動きは「まるで激しい空中戦を繰り広げているかのようだ

「ああっ♡イク♡イツチャウ♡

キョウヘイ「一緒にイこう?♡ アタシの中に全部出して♡」

フウロの声が絶頂に達する

その瞬間「彼女の体が弓なりに反り激しい痙攣が全身を駆け巡る

「ああああっ♡♡♡」

キョウヘイも同時に達し「フウロの中に熱い精液を放出する

二人の体が一つになり「まるで大空を駆け巡るような至福の時間が流れる

しばらくして「フウロはキョウヘイの胸に顔を埋めた

彼女の髪から甘い香りが漂う

「ふふ キョウヘイ 最高のフライトだったね♡

アタシね アナタとのエッチ 大好き♡ また一緒に空を飛ばうね?」

フウロの声には「満足感と幸福感が溢れていた二人は互いを抱きしめ
余韻に浸りながら「次の「フライト」への期待を胸に秘めるのだった!」













